

11. モモのウメシロカイガラムシに対する冬期防除薬剤の効果（技術）			
[要約] モモの <u>ウメシロカイガラムシ</u> に対し、 <u>マシン油乳剤（95%）</u> は効果が高く、 <u>石灰硫黄合剤</u> は効果が低い。			
研究室名	病虫研究室	連絡先	0869-55-0543

## [背景・ねらい]

モモのウメシロカイガラムシの冬期防除としてマシン油乳剤と石灰硫黄合剤の散布が指導されているが、近年、現地ではマシン油乳剤が省略され、石灰硫黄合剤のみ散布されるケースが多くみられる。そこで、両剤の防除効果を再検証し、防除上の参考資料とする。

## [成果の概要・特徴]

1. マシン油乳剤散布区では散布 100 日後の補正密度指数が 1.3 ときわめて低かったのに対し、石灰硫黄合剤散布区では 71.8 と高く、無処理との差が小さかった（表 1）。

以上の結果、モモのウメシロカイガラムシに対し、マシン油乳剤（95%）は効果が高く、石灰硫黄合剤は効果が低い。

## [成果の活用面・留意点]

1. 合成ピレスロイド剤を連用すると本虫が増加するので避ける。
2. ウメシロカイガラムシの発生が多い園では、12～2月のマシン油乳剤の散布を励行する。ただし、石灰硫黄合剤との散布間隔は1か月以上とする。なお、散布前に寄生が多い部位をタワシ等でこすり落とすと効果が高まる。
3. 性フェロモンを利用した減農薬体系では本虫の発生が多くなる傾向がある。

[具体的データ]

表1 モモのウメシロカイガラムシに対する冬期防除薬剤の効果

供試薬剤名	散布 月日	希釈 倍数	1枝当たり雌成虫数		補正密度指数 (散布100日後)	薬害
			散布前	散布100日後 <sup>注)</sup>		
石灰硫黄合剤 多硫化カルシウム27.5%	3/11	7倍	33.4	10.4	71.8	—
マシン油乳剤 マシン油95%	2/14	20倍	36.8	0.2	1.3	—
無処理			34.6	15.0	100	

注) 石灰硫黄合剤散布から100日後を示す

[その他]

試験研究課題：果樹主要病害虫の効率的防除薬剤の実用化試験

予算区分：県単

研究期間：平成14年度

関連情報等：なし